



※一般質問の内容は議員自身が2月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和4年2月定例会を選択すると視聴できます。



さの あつし
佐野 孜
(富岳会)

市内北部地域の発展計画について

問 北部地域の一次産業と観光資源の発展計画の方策を伺う。

部長 朝霧地域に圃場を持ち、営農している認定農業者は10人くらいいる。しかし、大半の方々がビニールハウスでの施設栽培であり、農業体験を事業として行っている農家はない。一方、同地域には約40軒の酪農家があり、そのうち4軒で酪農体験を受け入れている。このような現状を踏まえ、各キャンプ場や農業協同組合及び酪農体験組合のご協力を得ながら、体験できる牧場や景色のよい農場、牧場を周遊モデルコースに設定し、新しい観光ニーズに応えられるよう、魅力的な観光コンテンツづくりを観光部門と連携して研究していきたい。

問 高齢者が人生の終えんまで地域で豊かさを

感じられる地域経済の向上策について伺う。

部長 高齢者が豊かさを感じながら住み続けるためには、生活基盤を充実させる必要があると考える。市としては、社会福祉協議会と企業組合富士宮・食のひらめき会が連携し、出張商店街として生活支援サービスを行い、地域の生活基盤の補完をしている。また、移住定住とともに起業・創業の支援を推進し、若者や子育て世代の移住を促し、地域コミュニティの維持につなげ、地域経済の向上に努めているところ。

学校教育環境の整備について

問 不登校児童生徒に対する教育方針を伺う。

教育長 各学校において電話連絡や家庭訪問等を丁寧に行うことで、一人一人の考えや思いを理解しようと努めている。教育委員会としては、各学校で作成した不登校初期対応マニュアルを活用し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等や関係機関との連携を図りながら組織的に対応し、一人一人の児童生徒の困り感に応じた支援に努めている。



さの としお
佐野 寿夫
(公明会)

富士宮市民プール利用料金における高齢者に優しい割引区分を導入することについて

問 市民プールの全体の利用実績は。

部長 平成30年度は年7万6776人、1日平均250人。令和元年度は年7万265人、1日平均227人。令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数が大幅に減少している。

問 高齢者の利用状況は。

部長 年配の方にも多く利用していただいております。水泳だけではなく、水中ウォーキングをされている。

問 高齢者に優しい割引料金区分の導入は。

部長 高齢者だけではなく、特定の人数の少ない時間帯の料金を下げることが検討できるか考えている。

問 検討結果はいつごろ出るか。

部長 できるだけ早く結論は出していく。



住民票の写しなどの証明書類の申請書の作成を支援する「書かない窓口」の導入について

問 「書かない窓口」の導入は考えているか。

部長 現在市民課では、来庁者の案内役としてフロアマネージャーを申請書記載台付近に常時配置し、必要書類の種類や記入方法について丁寧に対応し、窓口担当がスムーズに処理できるよう役割分担を行っている。当面の間はこの方法で対応していく。将来を見据えてより有効なDX化を進めるべく、今後も調査研究していく。